第 701 回
日本小児科学会東京都地方会講話会
プログラム

日　　時：　2024年10月12日（土）午後2時00分

開催会場：　アットビジネスセンター八重洲 501 号室

＊2024 年度より会場開催のみとなります。

＊講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備　考
1,000 円	小児科領域講習 1 単位（iii 貼付用） 学術集会参加単位（iv -B 貼付用）	＊単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60 分）

【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8　八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会　長：水野　克己（昭和大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和大学医学部小児科　担当：阿部　祥英

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：https://jpeds-tokyo.com/

第 701 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

（1 題 6 分、追加討論 3 分以内厳守のこと）
≪プログラム係　昭和大学　神谷　太郎≫

一般演題（1）14：00 － 14：50　座長　杉山　隆朗（日赤医療センター　小児科）

１）難治性発作性上室頻拍に対し抗不整脈薬３剤併用が有効であった新生児例

○松田　知実、丸山　篤志、神野　太郎、住友　直文、小柳　喬幸、山岸　敬幸、鳴海　覚志
（慶應義塾大学小児科）

日齢 11 の新生児。頻回再発する発作性上室頻拍に対し、塩酸ランジオロールおよびフレカイニドを投与したが発作は抑制されず、アミオダロンを追加投与したところ頻拍発作は消失した。新生児の発作性上室頻拍を抗不整脈薬単剤で治療した報告は多いが、2 剤目以降の薬剤選択について明確な指針はない。本例では新生児の難治性発作性上室頻拍に対し、β遮断薬・フレカイニド・アミオダロンの 3 剤併用が有効であったと考えられた。

２）眼球石灰化および脈絡膜欠損を認めた先天性サイトメガロウイルス感染症の１例

○川上　千皓、岡橋　彩、佐藤　優希、呉　英俊、原　康一郎、今泉　隆行、不破　一将、土方　みどり、長野　伸彦、森岡　一朗
（日本大学小児科）

日齢 0 新生児。在胎 40 週 3 日に体重 2,890g で出生した。胎児脳室拡大を認めており、精査のため NICU に入院した。MRI 検査で脳室拡大と白質障害を認め、CT 検査で脳実質、脳室内および左眼球後部に石灰化を認めた。眼底検査で左黄斑部の網膜色素と脈絡膜の欠損を認めた。日齢 0 の尿中サイトメガロウイルス（CMV）核酸定性検査が陽性であり、症候性先天性 CMV 感染症と診断し、バルガンシクロビル内服療法を行った。

３）新生児期に診断した Poland 症候群の１例

○宮坂　豪[1)]、木村　太郎[1)]、城所　励太[2)]、中野　有也[2)]、阿部　祥英[2)]
（[1)] 昭和大学医学部小児科学講座、[2)] 昭和大学江東豊洲病院こどもセンター）

日齢 0 の新生児。在胎 39 週 3 日、出生体重 3,100 g で出生し、左大胸筋欠損、同側短指・合指症を認めた。染色体異常は無く、Poland 症候群と診断した。本疾患は片側胸郭の骨格筋、同側皮膚軟部組織に形成不全をきたし、将来的に胸郭変形に対する手術を要することがある。男女の違いで手術時期が異なるが、現時点で包括的な診療ガイドラインは無く、子どもの総合医として小児科医の長期的な関わりを要するため、提示する。

４）Basedow 病母体から出生し後鼻孔閉鎖を発症した新生児例

○高杉　祐生[1)]、杉江　学[1)]、伊藤　一之[1)]、森丘　千夏子[2)]、北川　智介[3)]
（[1)] 東京科学大学病院小児科、[2)] 武蔵野赤十字病院新生児内科、[3)] 国立成育医療研究センター耳鼻咽喉科）

日齢 0 の新生児。母体は Basedow 病で妊娠 6 週までチアマゾールを内服していた。在胎 39 週で出生し、著明な呼吸促迫で挿管管理された。鼻腔ファイバーと CT で両側後鼻孔閉鎖と診断され、専門施設に転院し鼻腔削開術を施行された。術後 1 か月間、両側鼻腔ステントを留置され、合併症や再狭窄なく経過した。後鼻孔閉鎖は新生児呼吸障害の鑑別診断の 1 つだが、抗甲状腺薬内服母体からの出生児では特に念頭に置くべきである。

５）胃軸捻転を合併した有嚢性横隔膜ヘルニアの新生児例

○二見　奏音[1)]、日比生　武蔵[2)]、鈴木　絵美子[2)]、柏木　項介[2)]、武藤　大和[2)]、宮野　洋希[2)]、宮田　恵理[2)]、五十嵐　鮎子[2)]、鈴木　恭子[2)]、矢﨑　悠太[3)]、田中　奈々[3)]、浦尾　正彦[3)]、大友　義之[2)]

（[1)] 順天堂大学医学部附属練馬病院 臨床研修センター、[2)] 同　小児科、[3)] 同　小児外科）

日齢０の新生児。在胎 38 週２日、出生体重 3410g で出生した。哺乳良好で日齢６に前医を退院し、日齢７から頻回嘔吐のため当院へ紹介された。胸部 X 線検査で左横隔膜挙上及び胸腔内に胃泡を認め、上部消化管造影で胃の軸捻転を認めた。造影 CT で脾臓、胃が左胸腔内に突出しており、Congenital diaphragmatic hernia（CDH）と診断した。日齢 20 の左横隔膜縫縮術、胃固定術後、症状は消失し、日齢 37 に退院した。新生児嘔吐の鑑別診断として CDH は肝要である。

一般演題（2）14：50 － 15：30　座長　前川　貴伸（国立成育医療研究センター病院　総合診療部）

６）蛋白漏出性胃腸症を合併したノロウイルス胃腸炎の１例

○杉原　諄哉[1)]、橋本　佳亮[2)]、松井　亮介[2)]、渡邉　誠[2)]、植田　高弘[2)]

（[1)] 日本医科大学武蔵小杉病院小児科、[2)] 日本医科大学附属病院小児科）

10 歳女児。既往歴に特記事項はない。ノロウイルス胃腸炎のため入院し、対症療法を行ったが、下痢や腹痛などの消化器症状が２週間以上持続した。特に頻回の下痢が重症で低蛋白血症を来し、核医学検査で蛋白漏出性胃腸症と診断され、退院までに１か月ほどの治療期間を要した。ノロウイルス胃腸炎において本症例ほど消化器症状が重く、蛋白漏出性胃腸症にまで至った例はまれであり報告する。

７）多嚢胞性異形成腎に溶連菌感染後急性糸球体腎炎を合併し急性腎障害とネフローゼ症候群を呈した１例

○大久保　花純[1)]、平野　大志[2)]、関　純令[1)]、加嶋　菜々子[1)]、庄司　洋輔[1)]、橋本　大[1)]、大庭　梓[1)]、藤賀　由梨香[1)]、木下　美沙子[1)]、松岡　諒[1)]、斎藤　亮太[1)]、堀向　健太[1)]、髙畠　典子[1)]、大石　公彦[2)]

（[1)] 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科、[2)] 東京慈恵会医科大学小児科）

9 歳男児。多嚢胞性異形成腎に溶連菌感染後急性糸球体腎炎（PSAGN）を合併し、急性腎障害およびネフローゼ症候群を発症した。小児の PSAGN は保存的治療により軽快する。しかし、低形成腎や機能的単腎に PSAGN が合併すると急激な腎機能障害を起こすことが報告されている。本症例を通じて、機能的単腎における PSAGN の影響とその治療について文献的考察を行う。

８）２回のけいれん重積を契機に診断に至った Krabbe 病の１例

○河内　優美、税所　純也、大岩　純平、南　早織、笹本　武明、長尾　竜兵、山田　舞、市村　将、新井　健人、山中　岳

（東京医科大学病院小児科・思春期科）

4 歳男児。発熱、けいれん重積のため入院した。入院後、座位保持困難、見当識障害を認めたが、解熱後に症状は改善し、退院した。翌月に無熱性けいれんのため再入院し、頭部 MRI 検査で両側大脳白質に左右対称性の高信号を認めた。鑑別を進めていた際、病歴聴取で退行が判明した。白血球中ガラクトセレブロシダーゼの低下があり、Krabbe 病と診断した。けいれん重積、退行の鑑別に Krabbe 病は重要である。

９）無菌性髄膜炎を合併した川崎病の１例

○後藤　慈音[1)]、山下　恒聖[2)]、高橋　碧[2)]、佐々木　郁哉[2)]、関　沙和[2)]、大川　恵[2)]、髙木　俊敬[2)]、本多　愛子[2)]、岡田　祐樹[2)]、水野　克己[2)]

（[1)] 昭和大学病院臨床研修センター、[2)] 昭和大学医学部小児科学講座）

11 歳男児。4 日前からの頭痛・発熱が増悪するため当院を受診した。受診時、頭痛のため歩行困難であり、精査目的に入院した。髄液検査では細胞数増多を認めたが、糖は正常であり無菌性髄膜炎と診断した。入院２日目に川崎病５症状が出現し、川崎病と診断した。免疫グロブリンとアスピリンを投与し、症状は速やかに改善した。学童期でも川崎病に無菌性髄膜炎を合併することがあり、頭痛の鑑別として川崎病を考慮する必要がある。

＊　＊　　休　　憩　　15：30 － 15：40　　＊　＊

感染症だより　15：40 － 15：55　（講演：15 分）

講師　高梨　さやか（国立感染症研究所感染症疫学センター）

共催セミナー　15：55 － 16：35　（講演：40 分）

「こどもたちの目が危ない！超近視時代に小児科医ができる事とは」

座長　阿部　祥英（昭和大学江東豊洲病院こどもセンター）
講師　野末　富男（のずえ小児科）

近視は増加し低年齢化、重症化している。低年齢で発症するほど強度となり失明の可能性がある。治療としてレッドライトが注目されている。演者の研究では近視は年長児で 1%、小学 1 年生で 16%と著増していた。小児科医はワクチン開始のときからスマホに子守をさせないよう保護者に指導して頂きたい。スポットビジョンスクリーナー（SVS）の自動判定では遠視と近視を見逃す。3 歳児健診で屈折検査が導入されても SVS の活躍の場がある。

共催：ウェルチ・アレン・ジャパン株式会社

＊　＊　　休　　憩　　16：35 － 16：45　　＊　＊

教育講演　16：45 － 17：50　（講演：60 分 + 質疑応答：5 分）　小児科領域講習 1 単位

「新生児聴覚スクリーニングをめぐる話題」

座長　神谷　太郎（昭和大学藤が丘病院小児科）
講師　守本　倫子（国立成育医療研究センター耳鼻咽喉科）

現在東京都の新生児聴覚検査（NHS）実施率は 98.3%にまで増加した。診断―療育に至るまで切れ目のない体制作りを目指しているが、うまく療育につながらないケースや遅発性難聴のようにあとから難聴が顕在化してくるケースもあるなど問題は山積している。また、昨年より NHS でリファーであった場合は先天性 CMV 感染による可能性を確認、早期に治療を行うことも推奨されている。現在の NHS をめぐる話題について解説する

演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】https://jpeds-tokyo.com/

◆　2024 年度講話会及び年間行事予定　◆

■　講話会予定

講話会	日　程	会　場	備　考
第 702 回	2024 年 12 月 14 日（土）	アットビジネスセンター八重洲通（会場開催のみ）	
第 703 回	2025 年 1 月 11 日（土）		
第 704 回	2025 年 2 月 8 日（土）		第 2 回幹事会
第 705 回	2025 年 3 月 8 日（土）		

＊4，5，8，11 月は休会

■　小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support：JPLS）を年間 4 回開催します。
取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位　iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会　場	申込開始時期
2024 年 12 月 7 日（土）	日本大学	※ 9/29 申込締切
2024 年 12 月 8 日（日）	日本大学	
2025 年 2 月 1 日（土）	国立成育医療研究センター	2024 年 10 月上旬開始予定
2025 年 2 月 2 日（日）	国立成育医療研究センター	2024 年 10 月上旬開始予定

申し込み先：日本小児科学会 HP
https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

■　第 49 回東日本小児科学会のご案内
大会テーマ：小児科学の本質と魅力

会　　長：浜松医科大学　宮入烈先生
日　　程：令和 6 年 11 月 23 日（土・祝）
会　　場：えんてつホール（オンデマンド配信あり）
U　R　L：https://eastjp49.jp/

【主幹校（会長校）】昭和大学医学部小児科
【運営事務局】日本大学医学部小児科
【主幹校／運営事務局　共通アドレス】
✉　jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】
https://jpeds-tokyo.com/

◆　会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ　◆

【2024 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となります。

年会費納入のお知らせを 2024 年 4 月 1 日にメールおよびホームページにてご案内しております。

3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

＊会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認お願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

◆　関連学会の講演情報　◆

第 127 回東京小児科医会学術講演会のご案内

オンデマンド開催：小児科領域講習専門医 2 単位取得（申請中）

オンデマンド配信期間：令和 6 年 11 月 23 日（土）～ 12 月 8 日（日）予定

視聴申し込み期間：未定

詳細：東京小児科医会ホームページ　https://tokyo-pediatrics.org/

開催に関する問い合わせ先：編集室なるにあ

E-mail：tpa@narunia.co.jp

電話：03-3818-6400（平日 9：00 ～ 17：00）

第 52 回東京小児科医会セミナーのご案内

開　催　方　法：Web ライブ開催

開　催　日　程：令和 6 年 10 月 13 日（日）14：00 開始

視聴申込締切：令和 6 年 10 月 13 日（日）13：00 まで

詳細：東京小児科医会ホームページ　https://tokyo-pediatrics.org/

開催に関する問い合わせ先：マルホ株式会社

E-mail：tomita_dah @ mii.maruho.co.jp

電話：080-2425-1570